

一 般 質 問 事 項

(令和8年第1回幸田町議会定例会)

質 問 者	件 名 ・ 要 旨	答 弁 者
1 岩本 知帆	<p>1 育休を取りやすい職場づくりについて</p> <p>職員が育休を安心して取得でき、復帰後も継続して働ける職場環境として、取得実態の把握、業務カバー体制、定数運用、カバーする側への支援、周辺支援を一体で確認する。</p> <p>(1) 直近3年の育休取得状況など。</p> <p>(2) 育休取得時の代替配置・応援体制の現状(会計年度任用職員の活用、外部委託、庁内応援等)など。</p> <p>(3) 業務をカバーした職員の負担把握(時間外増、業務量増、心身負担、離職・異動希望等)と「見える化」の手法など。</p> <p>(4) 職員や教員の育休取得等による欠員が見込まれる場合の「定数(配置)変更」の考え方(増員・重点配置・応援配置のルール化)など。</p> <p>(5) 体制強化メニュー(応援職員の仕組み、繁忙期のみの短期補充、外部委託の活用等)の検討状況など。</p> <p>(6) カバー支援の制度設計(手当・勤務配慮・表彰等)と来年度の導入・試行の考えなど。</p>	町長 教育長 担当部長
	<p>2 働く子育て家庭を支える緊急支援と、子連れで利用しやすい庁舎づくりについて</p> <p>こどもの急な発熱等の緊急時における支援の空白を埋め、働く家庭の継続就労を支える仕組みについての現状と子連れでも利用しやすい行政窓口の環境整備について問う。</p> <p>(1) 病児・病後児保育の受け皿と利用実績、利用できなかったケースの把握と課題分析(距離・時間・予約等)など。</p> <p>(2) 緊急時支援ニーズの把握と相談導線(情報提供・周知方法)など。</p> <p>(3) 行政と民間の連携(ベビーシッター派遣、登録制、利用補助(クーポン方式等))の可能性と段階的導入など。</p> <p>(4) 子連れ来庁時の課題(待ち時間、導線、プライバシー、授乳・おむつ替え等)と改善の仕組みについて。</p> <p>(5) 役場1階キッズスペースの設置について。</p>	町長 担当部長
	<p>3 住民の防災力向上について</p> <p>一昨年実施された防災キャンプの成果を踏まえ、平時の取組と災害時対応を接続するための発展策を確認する。あわせて、安全テラスセンターの活動状況と、地域防災・住民啓発との連携のあり方を問う。</p> <p>(1) 防災キャンプの成果と課題の整理(参加状況、運営体制、気づきの共有)など。</p>	町長 担当部長

(岩本 知帆)	(2) 防災キャンプ後の住民の防災力向上に向けた発展策など。 (3) 安全テラスセンターの活動状況など。	
2 稲吉 照夫	<p>1 公共交通体系の見直しに関して</p> <p>令和8年10月から新たな公共交通体系のスタートが表明された。高齢者からの期待の大きさを感ずる。以下を問う。</p> <p>(1) えこたんバスに関して。</p> <p>① 30分で一周のコースと聞くが路線数は。</p> <p>② 起点はどことするのか。</p> <p>③ JR3駅への利便性を重点に置く必要があるのでは。</p> <p>④ 有料化になるのかなど。</p> <p>(2) チョイソコこうたを3台に増やすと聞いたが。</p> <p>① 利用者の制限を設けるのか。</p> <p>② 利用の仕方はどのようになるか。</p> <p>③ 有料化の考えは。</p> <p>④ 停留所設置の考え方は。</p> <p>⑤ 団体としての登録は出来るかなど。</p> <p>(3) 福祉タクシーの利用方法は変わるか。</p> <p>① タクシー業者の廃業があったが、利用方法に変わりが生じるのかなど。</p> <p>(4) 藤田直行タクシーについて。</p> <p>① 役場に停留所を設けたが利用状況はどのように変わったか。</p> <p>② チョイソコこうたに変えることは出来ないかなど。</p> <p>(5) 将来の公共交通体系の考え方は。</p> <p>① えこたんバスの更新時により小型化にする考えは。</p> <p>② レベル4までの自動運転実験の実績があるが、これを活かすことも必要と思うが、考えはなど。</p>	町長 担当部長
3 野坂 純子	<p>1 本町の未来のために期待する施策について</p> <p>幸田町は、2026年1月1日時点で人口41,880人で、出生数は減少しているが、若い世代の転入などにより子どもの数は大きく減っていない。住民の皆さんから寄せられる声は多様化している。そこで伺う。</p>	町長 担当部長

<p>(野坂 純子)</p>	<p>(1) 子育て・若者支援のさらなる前進について。</p> <p>① 保育園と放課後児童クラブの受け皿拡充について、現状と今後の整備計画は。</p> <p>② 子育て世帯への住宅支援(家賃補助・リフォーム補助等)の検討状況は。</p> <p>③ 若者の地元定着に向けた、町内企業との就職支援の現状や新たな連携策はあるか。</p> <p>(2) 高齢者の移動支援と地域福祉の強化について「移動の不安」「見守りの必要性」が高まっている状況を踏まえ伺う。</p> <p>① えこたんバス、チョイソコこうた、藤田乗合直行タクシーなど、移動支援拡充の現況は。またタクシー助成券の利用状況など。</p> <p>② 地域・企業・民生委員と連携した見守り体制強化をどのように進めるか。</p> <p>(3) コンパクトなまちづくりと公共交通の利便性向上について。</p> <p>① 駅周辺再整備について、歩行者空間や商業施設、公共施設等の計画はあるか。</p> <p>② 自転車・徒歩の安全確保に向けた優先課題は何か。</p> <p>(4) SDGs未来都市としての環境施策について。</p> <p>① 公共施設への太陽光発電・蓄電池導入の今後の計画は。</p> <p>② 省エネ住宅支援の拡充について、検討状況は。</p> <p>③ 里山など、地域資源を活かした環境保全の進め方は。</p>	
	<p>2 小学校クラブ活動に「防災クラブ」導入の考えについて</p> <p>児童が防災について主体的に学ぶ機会を広げる取り組みとして、町内小学校のクラブ活動に「防災クラブ」を設ける可能性について伺う。</p> <p>(1) 小学校における防災教育の現状は。</p> <p>(2) 防災クラブ導入の意義について他市町を参考にして、本町の考えは。</p> <p>(3) 今後の検討など進め方は。</p>	<p>町長 教育長 担当部長</p>
<p>4 丸山千代子</p>	<p>1 小中学校同時に学校給食無償化を</p> <p>学校給食の無償化は、運動や国民の世論と給食無償化を実施する自治体の広がりによって国が無償化を表明した。政府の骨太方針に盛り込まれ、首相の所信表明で安定財源を確保し、小学校について今年4月から実施すると示されている。しかし、「義務教育はこれを無償とする」との観点からも、子どもたちに格差を生じさせないことから、小学校とともに中学校も無償化すべきではないか。小中学校同時に学校給食無償化実施について問う。</p>	<p>町長 教育長 担当部長</p>

(丸山千代子)	<p>(1) 小学校無償化実施に対する国の負担額はいくらか。</p> <p>(2) 負担の対象となる小学生の人数は。</p> <p>(3) 中学生の人数は。</p> <p>(4) 町独自で中学校の無償化の町負担額は。</p> <p>(5) 小中学校同時に学校給食無償化の実施を。</p>	
	<p>2 子どものインフルエンザワクチン助成の拡充を</p> <p>今年度は例年より早くインフルエンザが流行し、患者数が増加している。1月から2月にかけて学級閉鎖も相次いでいる。とくに、重症化しやすい子どもへの配慮が必要である。子どもの健康を守るためにも、また、学級閉鎖や看病のため仕事を休まざるを得ない親の負担を減らすためにもインフルエンザの予防接種の助成拡充を問う。</p> <p>(1) 現在までの学級閉鎖数と患者数は。</p> <p>(2) 入院に至ったケースはあるか。</p> <p>(3) 中学校3年生と高校3年生にはインフルエンザワクチンの助成をしている。これを、すべての子どもに助成を拡充する考えは。</p>	町長 教育長 担当部長
	<p>3 高齢男性の居場所づくりについて</p> <p>定年退職した高齢男性が地域でのつながりや、社会的なつながりを失い、家庭で閉じこもったり、孤立することがある。一人暮らしの高齢男性も増えてきている。 高齢男性向けの居場所づくりについて問う。</p> <p>(1) 65歳以上の高齢男性の人数は。(うち、単身男性の人数は)</p> <p>(2) 社会的な孤立は、心身の健康にも悪影響を及ぼす。発見が遅れ孤立死の心配もある。孤立死したケースはあるか。</p> <p>(3) 入院に至ったケースはあるか。</p> <p>(4) フレイル予防として、健康体操なども実施しているが、男性の参加が少ない。男性に限定した活動を取り組む考えは。</p> <p>(5) 「できる男の料理教室」を実施してつながりができた事例があり、地域でのつながり、ボランティア活動にもつながってきた。男性向けの料理教室の復活を。</p> <p>(6) 高齢男性向けのメニューを増やし、地域でのつながり、居場所づくりの取り組みを。</p>	町長 担当部長
5 藤本 和美	<p>1 選挙の投票管理について</p> <p>(1) 開票作業者の選任方法と禁止事項の案内などは。</p> <p>(2) 他自治体で発生したような不正投票を防ぐための対策について。</p>	町長 担当部長

<p>(藤本 和美)</p>	<p>① 使用する投票用紙の枚数はどのように決定されているのか。また在庫管理方法は。</p> <p>② 投票所入場券を持参しない人の本人確認方法は。</p> <p>(3) 投票所から投票箱を運ぶ間の不正行為を防止するため、どのような手順で管理しているのか。 また、投票箱の移送に携わる方の選任方法は。</p> <p>(4) 持参したボールペンやマジックで記入できるか。</p> <p>(5) 白票は有権者の意思表示。白票数の公開は可能か。</p> <p>(6) 投票が無効となる代表的なケースの周知は。</p> <p>(7) 開票作業の見学の周知は。</p>	
	<p>2 部活動の地域移行について</p> <p>(1) 土日の中学生の練習に学校の運動施設を使用したいという声があるが、対応は。</p> <p>(2) 部活動も大切な成長の場であるが、練習場所や時間は今後どうなるのか。</p>	<p>町長 教育長 担当部長</p>
<p>6 田境 毅</p>	<p>1 町民の移動のしやすさ・安全性向上(駅・公共交通・自転車・通学路・医療アクセス)について</p> <p>町民アンケートで「交通の便の悪さ」が“悪いところ”の第1位だったのは、“毎日の小さな不便と不安”の積み重ねではないでしょうか。</p> <p>駅の人流整流、バス再編前の“歩く”前倒し整備、自転車・通学路の“見える安全”、医療アクセス情報の統一、そして交通DXまで、移動の全体を「ひとつつながりの政策」として問う。</p> <p>(1) 幸田駅の混雑・動線の課題と実測にもとづくその改善手法を。</p> <p>(2) えこたんバス再編(令和8年10月)に向けた前倒し整備を。</p> <p>(3) ゾーン30プラス等の包括的アプローチで通学路の見える安全の確保を。</p> <p>(4) 青矢羽・ナビライン等の標準化など中高生の自転車運転の安全性確保を。</p> <p>(5) 医療アクセス(藤田医科大学岡崎医療センター直行タクシー)情報の統一を行い、必要なときに利用可能に。</p> <p>(6) バス、駅、学校など生活情報を1か所で確認できる特設ページを開設し、交通DX推進を。</p> <p>(7) 働く世代の負担軽減として、駅、えこたんバス、自転車、生活道路を「ひとつつながりの政策」とした改善を。</p>	<p>町長 教育長 担当部長</p>